

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	蒲生町立蒲生西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21	30
児童数	99	103	84	84	118	93	5	586	

研究の概要

1. 研究主題

<p>自ら学び、豊かに表現する子どもの育成 ~ 教科の基礎・基本の定着を図る授業の工夫(算数科を中心に) ~ 児童が瞳を輝かせ、主体的に創造する授業をめざして</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

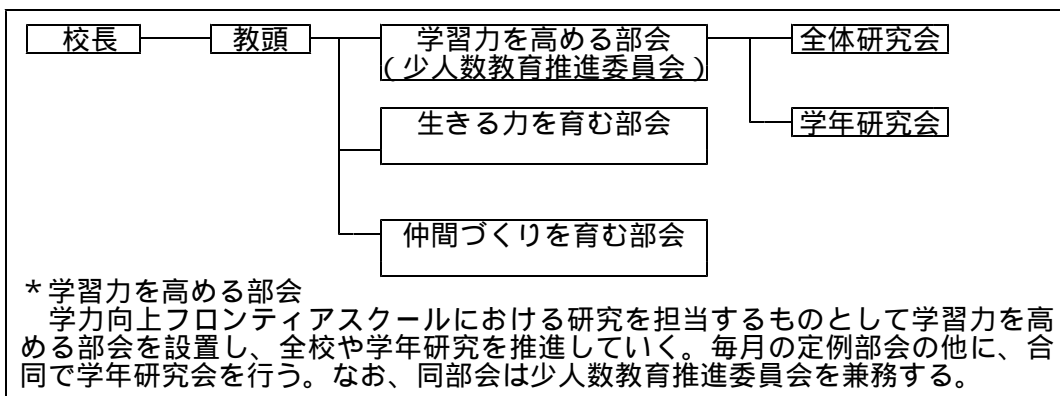
<p>実施学年：1～6年生、障害児学級 教 科：算数科、かずとことは ・児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。 ・それぞれの学年の発達段階に応じた基礎・基本の定着を図るため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自ら学び、豊かに表現する子どもの育成 ~ 教科の基礎・基本の定着を図る授業の工夫(算数科を中心に) ~</p> <p>仮説 少人数学習を取り入れた個に応じたきめ細かな指導のあり方や子どもが自ら課題を見つけ、算数的活動を通して解決していくような授業改善に取り組んでいけば、子どもの学ぶ意欲を喚起し、確実な基礎・基本の定着を図り、自ら考える力を高めることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法 児童が瞳を輝かせ、主体的に創造する授業をめざし、研究の視点を次の4点に絞り、それぞれの学年の実態に応じて重点内容を決めて取り組んでいる。</p> <p>1. 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・学習内容や発達段階、習熟度等に応じて多様な形態(均等、課題別、習熟度別)を工夫する。 ・多くの考え方を交流したり、仲間づくりを進める点では、学級全体での指導やTT指導が有効である。少人数学習と学級全体での指導の両者を取り入れた授業を工夫する。</p> <p>2. 個に応じた学習内容や学習活動の工夫改善 ・子どもの興味・関心・意欲を引き出すような算数的活動を取り入れて、算数の楽しさやわかる喜びが感じられ、感動のある学習を工夫する。 ・補充的な内容や発展的な内容の工夫</p> <p>3. 児童の指導に生かす評価のあり方 ・教師による評価 ・児童による評価(自己評価や相互評価)</p> <p>4. 基礎的な知識や技能の確かな定着 ・児童の学力の実態把握を定期的に行う。 ・繰り返し学習による基礎的な知識や技能の定着 週2回の朝の時間を「はげみ学習」として基礎的な知識や技能の定着を図ることを目的として取り組む。また、既習内容の基礎・基本の実態把握を行い、十分身につけていない内容については毎週金曜の「あかね学習」で繰り返し学習する。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び、豊かに表現する子どもの育成 ～ 教科の基礎・基本の定着を図る授業の工夫（算数科を中心に）～</p> <p>仮説</p> <p>少人数学習を取り入れた個に応じたきめ細かな指導のあり方や子どもが自ら課題を見つけ、算数的活動を通して解決していくような授業改善に取り組んでいけば、子どもの学ぶ意欲を喚起し、確実な基礎・基本の定着を図り、自ら考える力を高めることができるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>児童が瞳を輝かせ、主体的に創造する授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15年度の研究内容を継続 ・校内学力テストの実施による児童の学力把握 ・児童の主体的な授業づくりのための工夫 ・はげみ、あかね学習の見直し
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

個が生きるきめ細かな学習指導の進め方の工夫

基礎・基本を身につけるために、一人ひとりの子どもの学習活動の状況を適切に把握して、一人ひとりに応じた支援の場と方法のあり方を工夫しなければいけない。子ども一人ひとりの状況をどこでどうとらえ、個々の主体的学習をどう組み合わせるかを考え、個別指導やグループ指導、繰り返し指導等をどう組み入れていくか授業研究を深め検討してきた。

3～4年生は、1学級が2教室に分かれて少人数学習を実施。5～6年は2学期から理解や習熟の程度に応じた学習を4つのコースに分かれて実施。
単元内容や児童の実態により、1つの単元の中で、TTや習熟度別、課題別、方法別等を組み入れてきた。5年「面積」、4年「小数のしくみ」

児童の実態を踏まえた、習熟の程度に応じた指導（単元通して）

- ・学年、教科 6年 算数科
- ・単元名 「分数のかけ算とわり算」「変わり方を調べよう」
- ・指導形態の工夫 「数と計算」領域であり、児童の習熟の程度に差が見られる。そのため児童一人ひとりの習熟の程度に対応した効果的な指導を行うため、3つのコースを設けることにした。

スタンダードコース...既習の学習内容を復習しながら、じっくり時間をかけて学習する。

アーネストコース ...既習の学習内容の定着をはかりながら学習する。

トライアルコース ...既習の学習内容を活用しながら、発展的な学習も行う。

3学級を解体し、担任と加配を入れた4つのコースをつくる。アーネストコースを子どもたちの習熟の程度によりさらに2つに分ける。

- ・学年、教科 5年 算数科
- ・単元名 「小数のかけ算とわり算」（単元通して）
- ・指導形態の工夫

「数と計算」領域であり、児童の習熟の程度に差が見られる。そのため児童一人ひとりの習熟の程度に対応した効果的な指導を行うため、3つのコースを設けることにした。

- ・じっくりコース ...既習の学習内容を復習しながら、じっくり時間をかけて学習する。
 - ・ばっちりコース ...既習の学習内容の定着をはかりながら学習する。
 - ・チャレンジコース...既習の学習内容を活用しながら、発展的な学習も行う。
- 3学級を解体し、担任と加配を入れた4つのコースをつくる。人数の一番多いばっちりコースを均等に2つに分ける。
コース選択は事前のレイネステストと自己評価に基づいて子ども自身が行うがその子に合ったコースが選べるよう、親や教師の適切な助言が必要である。
また、毎時間の「学習ふり返しカード」による自己評価や「個人カルテ」等により、児童一人ひとりのつまづきに適切に支援できるようにした。

毎時間の自己評価を大切にしたい指導

- ・ 学年、教科 4年 算数科
- 4年生では、毎時間の後半に「パワーチェックカード」で本時のめあてに沿った到達問題を「今日のゴール」と題して行っている。その問題の出来具合で児童の習熟度をチェックし、理解が不十分な児童には、「残りの授業時間でもう一度指導し、どの子もその日のめあてが到達できるように努めている。
また、児童は「今日の学習はどのパワー？」で自己評価する。このカードをすることにより、児童も教師も、その時間の学習内容がどの程度理解できているかを判断することができる。

追求方法別集団編成による指導（単元の中で）

- ・ 学年、教科 4年 算数科
 - ・ 単元名「小数」
- この単元では、導入時と水のかさの小数（0、 $1\frac{1}{10}$ ）の学習においては、TTの形態で行ったが、その後児童は自分の体重や身長が小数で表されていることに興味・関心を示していたので、身長（cm）・体重（kg）の小数について次の2つのグループに分かれて学習を進めた。
身長グループ・・・自分の身長を表す小数部分について調べる。
体重グループ・・・自分の体重を表す小数部分について調べる。

全校朝の時間「はげみ学習」と「あかね学習」

「確かな学力」育成の基盤となる基礎的・基本的な学力づくりを推進する。漢字、計算等の繰り返し学習や高学年の国語、算数の補充・発展学習に取り組む。

理解や習熟の程度に応じたコース別学習を進めていく中で、一人ひとりの学習状況を考慮して、各コースのねらいにふさわしい教材づくりや指導法の工夫ができた。教師間の打ち合わせを大切にして教材研究を深めることができた。

コース別学習に関する意識調査から、子どもたちはおおむねコース別学習を気に入っていると見ることができた。また、学習がわかるようになり、ほとんどの子どもたちが意欲的に学習に取り組めるようになってきた。

算数的活動を取り入れ、問題解決的学習をする中で、自分の考えを発表したりノートにまとめたりする力がついてきた。3年生以上では「考えるノート」づくりに力を入れて取り組んでいる。

学習ふり返しカードやパワーチェックカードで、子どもたちが自己評価することで、一人ひとりの理解度をチェックし、事後の補充に生かすことができた。また、子ども自身の主体的な学習態度を身につけることができた。

方法別学習は子どもたちの意欲、関心を高めることができ、学習に対して主体的に取り組むことができた。

「はげみ学習」に取り組む中で、繰り上がりや繰り下がり計算が速く正確になり、計算力が伸びてきた。

2. 今後の課題

- ・ 個に応じた指導、個々の能力が発揮される指導ができるように、各コースのねらいの達成にふさわしい教材の開発と指導計画の作成。
- ・ 一斉学習、グループ学習、個別学習の組み合わせの中で、一人ひとりに応じた学習活動の展開と自己教育力の育成。
- ・ 児童による自己評価を工夫し、自ら課題を決定し自己チェックテストを取り入れた問題解決的な授業の工夫。

学力等把握のための学校としての取組

学力テスト
 ・昨年度は4年生以上を対象に年度末に実施。今年度初めには2年生以上に前年度の学習内容を中心に確認テストを実施。6年生は、1～6年の計算領域を中心に計算テストを実施。
 【考察】本校の児童は文章題の理解が苦手であることや「図形」や「量の測定」等における体験が少ないのではないかと考えられた。また、計算領域では2年生でのかけ算や繰り上がり・繰り下がり等の基礎的な技能の習得が十分でない児童は、高学年になっても十分習得できていないことが明らかであった。
 そこで、単に知識や公式を覚え込むのではなく、その意味を理解し自分で問題を解決していく力をつけることが大切である。また、各学年における基礎的・基本的な技能の習得を確実に行うことが大切である。特に全校で取り組む「はげみ」「あかね」学習の有効な取組みを考えていくことが、今後の課題である。

少人数アンケート
 ・3年生以上を対象に毎学期末に実施。
 算数アンケート
 ・3年生以上を対象に4月・10月・2月実施。
 【考察】上記のアンケートの結果から、子どもたちは少人数学習を気に入っている事がわかった。また、算数の時間が「楽しい」「よくわかる」ことが算数好きにつながっている。特に高学年では「わからない」ことから算数ぎらいになっている。このようなことから一人ひとりの「わかった!」を確かなものにしていく授業の工夫が必要である。

習熟度別学習アンケート
 ・5、6年生を対象に単元終わりに実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティア事業第3地区第2回協議会 郡算数主任会同時開催
 日時 平成15年11月28日(金) 13:30～16:30
 日程 13:30～14:15 公開授業
 第3学年 算数科「かけ算の筆算を考えよう」(少人数学習)
 第6学年 算数科「変わり方を調べよう」(習熟度別学習)
 14:35～16:30 全体会および分科会
 指導助言 県教育委員会 城西小学校校長
 県算数部会授業研究会
 日時 平成16年1月27日(火)
 日程 13:55～14:40 公開授業
 第6学年 算数科「形の大きさの表し方を考えよう」(習熟度別学習)

学力向上フロンティア事業第3地区第3回協議会
 日時 平成16年2月9日(月)
 場所・内容 桐原東小学校 フロンティアスクール校の取り組み発表
 毎月1回の授業公開日における授業公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無